



グループ
法人
事務士
佐藤 美由紀
最首
行政書士

注目される「遺贈寄付」

長引くコロナ禍は、勤務スタイル・生活様式に大きな変化をもたらしました。そして、このような日々の暮らしの変化は、人との関係、物事の本質・価値について、根本的に見詰め直す機会にもなっているように思います。

このような時代の変化が後押ししてか、「終活」の一環として、「遺贈寄付」が注目されているようです。そこで、今回は「遺贈寄付」をテーマにしたいと思います。

「遺贈寄付」とは？

「遺贈寄付」とは、遺産の一部または全部をNPO法人や公益法人などの団体に寄付することを言います。遺贈寄付の方法としては、①遺言による寄付②死因贈与

契約による寄付③生命保険による寄付④信託による寄付などがあります。

(因みに、法律用語で「遺贈」とは、遺言によって財産を譲ることをいい、「遺贈」により寄付をする場合は①を指します。ですが、一般に「遺贈寄付」という場合は、②③④なども含む広い意味で使われています。)

「遺贈寄付」を選択する場面

◆相続人となる人がいない：

例えば、子供がなく、親・配偶者も亡くなっていて、兄弟もいない方は、相続人となる人がいません。このような場合、まず財産を管理する相続財産管理人が選任されます。そして、3度の公告を経て相続人の不存在が確定すると、特別縁故者と認められた方へ財産分与が行われ、残余財産があれば最終的に国庫へ帰属することになります。国庫への帰属によって、自己の遺産が公の役に立つのは間違いないですが、それよりも、自分の希望する公の機関に財産を提供し、公共に役立てたいと考える方も多くいらっしゃいます。そのような場合に「遺贈寄付」を選択されるようです。

◆寄付で社会貢献をしたいが：

生きている間は、生活する上である程度の安心も必要ですから、なかなか多額の寄付は難しいもの

です。しかしながら、残った遺産から寄付をする「遺贈寄付」であれば、それが叶えられることもあるため、検討される方もいらっしゃると思います。

「遺贈寄付」をする際に気を付けたいこと

遺贈寄付をする場合に気をつけたい、主要な点を挙げてみました。検討される場合は参考にしてみてください。

- (1) 寄付先の団体が、信頼できる団体かを見極めること
- (2) 法定相続人の遺留分・心情に配慮すること
- (3) 相続の際に採める原因とならないよう、相続人への配慮も必要です。
- (4) 全財産の●分の1を：と包括遺贈ではなく、「金●万円を：」「金融資産の●分の1を：」という特定遺贈の形にする
- (5) 包括遺贈の形式ですと、寄付先がマイナスの財産も引き継ぐ可能性があります。
- (6) 寄付先の団体が寄付を受け入れてくれるか確認しておくこと
- (7) 不動産・株などの寄付は受け入れていない団体もあります。その場合は、売却し換価した金銭を遺贈する、清算型遺贈にするとよいです。

いす。(5)遺言執行者を指定しておくこと
お手続きがスムーズに進みやすいです。

素敵な「今」を！

相続関係のお仕事をさせていただいていると、遺言作成のお手伝いや遺言執行などで、遺言を目にする機会が度々ありますが、遺贈寄付をされる方もいらっしゃいます。そこには、自身が助けられた経験からの感謝や、生涯を通じての活動など、「人生」が映し出されています。亡くなった後も、その方の「思い」や「信念」が、遺贈寄付をした団体を通じて生き続けることは、とても素敵なことだと感じます。実際に「遺贈寄付」をするかは別として、自身の財産を、亡くなった後にどのように生かしたいか：と考えることは、「今」の生き方、価値観を確かめるよい機会になるかも知れません。是非とも素敵な「今」をお過ごしください！



創業代表理事
アップ協会
サイドかい
サニセック
おせっか
（1日1話、読めば心が熱くなる
365人の仕事の教科書）

「人を救う一枚の紙切れ」

高橋 恵

私のおせっかいの原点には、子供時代の辛い経験がありました。「何で戦死したの。手がなくても足がなくても、生きて帰ってきてほしかった！」
そう泣き叫ぶ母のそばで、10歳の私は、姉と妹と共に、一緒に泣いていました。良家に生まれた母でしたが、幼くして両親を、大東亜戦争で夫を亡くしました。戦後始めた事業もほどなく倒産。手のひらを返したような世間の冷たさに晒され、押しかける債権者に家財道具一切を持ち去られました。母の指から父の形見の真珠の指輪を強引にもぎ取る姿が今も目に焼き付いています。母はこの時、一家心中の瀬戸際にまで追い込まれていたのでしょうか。しかし、それを子ども心に感じた時、ガタツという物音が玄関から聞こえたかと思うと、ガラス戸に一枚の紙きれが挟まっていた。そこにはこう書かれていたのです。

「あなたには二つの太陽（子ども）があるじゃありませんか。今は霧の中に隠れていても、必ず光り輝くときが来るでしょう。それまでどうかくじけないうでがんばって生きてください」

その手紙を読み聞かせながら、母は、はつと気がついて、ごめんね、ごめんねと謝って抱きしめてくれたのです。おそらく私たちの窮状を見かねた近所の方だったのでしよう。人間のちよつとした優しさに、人の命を救うほどの力がある。この時の強烈な印象、そして一家を養うために身を粉にして働く母の姿が、私のおせっかいの原点になったのです。



いたのが壮絶な「いじめ」でした。空腹を我慢し、冬は霜焼けで10本の指がただれていても雑巾がけ。手をつけて謝っても、これでもかと足を踏みつけられる……。あまりの仕打ちにトイレで泣き明かすこともしばしばでした。その小窓から見えた空と、その中を自由に飛び交う鳥たちの姿、そして母に会いたいという悲しい思いは、いまでも忘れることができません。



「自由を、自らで生きていこう、そして、人間として、わけ隔てない生き方をしよう」と14歳の時に誓ったのでした。いま思い返すと、その後社会に出てからの私は、子ども時代の辛い体験と、母や見知らぬ人から受けた温かい愛情に突き動かされるように幸せを追い求め、無我夢中でおせっかいはばら撒いてきたような気がします。

論理カクイズ

ぐちゃぐちゃになっているロープを一直線に切ってみます。さて、何本のロープができるでしょう？

答えはこの早のどこかにあるよ！ 探してみてね!!

ヒント 右のように切ると、4本のロープになります。